

科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
(第23期第2回) 議事要旨

1. 日 時 平成27年1月16日(金) 10:00～12:00
2. 場 所 日本学術会議 6階 6-A会議室(2)
3. 出席者 小松 久男委員長、那須 民江副委員長、須藤 靖副委員長、
佐藤 岩夫委員、福田 裕穂委員、萩原 一郎委員、渡辺 芳人委員、
渡辺 美代子委員(スカイプ参加)
日本学術会議事務局企画課：吉住課長、高橋、伊藤、森
審議第二担当：松宮、大西、熊谷
日本学術協力財団：南、末次

【配布資料】

- 資料1 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
委員名簿
- 資料2 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
(第23期第1回) 議事要旨(案)
- 資料3 『学術の動向』平成27年1月号以降の特集等掲載記事一覧
- 資料4 現在寄せられている『学術の動向』特集記事等の企画案等
- 資料5 サイエンスカフェ開催実績
- 資料6 サイエンスカフェ関連資料
- 資料7 第23期日本学術会議パンフレット構成案

【参 考】

- 参考 日本学術会議関連イベント スケジュール(H26.10～)
- 第1回配布資料5 第23期の広報分科会に対する申し送り事項について
- 第1回配布資料6 『学術の動向』の編集について

議 事

(1) 委員の紹介

小松委員長が、第206回幹事会において新たに決定された委員を紹介した。初めて出席された佐藤委員、渡辺美代子委員及び前回の分科会を欠席された渡辺芳人委員から自己紹介が行われた。

(2) 前回議事要旨案の確認

- ① 資料2について、小松委員長より次の事項を修正すべき旨発言があった。

- ・ 2 ページ(6)②4 行目
「…特集 1 の企画提案者から案を提出させ、…」を
「…特集 1 の企画提案者に案の提出を願い、…」に修正。
- ・ 2 ページ(6)③
「…追認した。」の後に、
「6 月号までのテーマ（予定を含む）は下記のとおり。」を追加。
- ・ 3 ページ
全半角のハイフン及び記号「～」を、全角のハイフンに統一。
- ・ 3 ページ（2 月号）特集 1
『…要件-引くしま原子力事故の教訓』を、
『…要件-ふくしま原子力事故の教訓』に修正。

これらのほか、修正意見は出されなかったため、前回の議事要旨を確定することとした。

② 広報・科学力増進分科会の職務について、小松委員長より次のような補足説明があった。

- ・本分科会は、第 22 期の幹事会において、日本学術会議の広報機能の強化を実現すべきとの合意があり、小林前副会長及び家前副会長お二人の強い進言に基づき、旧広報分科会と旧科学力増進分科会の統合が決定された。
- ・『学術の動向』を、できるだけ日本学術会議の動きと連動させたい。
- ・その他、日本学術会議が行っている学術フォーラム、公開シンポジウム、サイエンスカフェ及び地区会議など、各種広報活動を連携させながら強化するねらいがある。

(3) 『学術の動向』の編集企画について

① 議事要旨への記載について

今までは 6 箇月以上先の特集などについて、訂正が発生することを考え非公表としていた（資料 2 の赤字の部分）が、今後は予定として公表することとした。

② 表紙案について

日本学術協力財団より『学術の動向』2 月号及び 3 月号の表紙案が提示され、両案とも承認された。

③ 特集のテーマ（予定）について審議した結果、次のように決定した。

前回において仮置きとなっていた平成 27 年 6 月号までのテーマを追認した。

10 月号までのテーマ（予定を含む）は下記のとおり。

（7 月号）

- ・特集 1：『災害に対するレジリエンスの向上に向けて』
- ・特集 2：『デング熱と蚊の分類と自然史標本』

(8月号)

- ・特集1：『東日本大震災からの水産業及び関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて』
- ・特集2：『2015 JAPAN PRIZE』

(9月号)

- ・特集1：『現代の雇用危機を考える』
- ・特集2：『人間力・社会力を強化する情報技術』

(10月号)

- ・特集1：『ナノ素材とナノ計測が拓くイノベーション』
- ・特集2： 未定

④ 編集後記の担当

7月号以降について、次のように決定した。

- (7月号) 佐藤委員
- (8月号) 萩原委員
- (9月号) 渡辺(美)委員
- (10月号) 渡辺(芳)委員

⑤ 『学術の動向』の在り方

- ・小松委員長から、できるところから、外に向かって発信するという精神で、新しい形を打ち出したい旨発言があった。
- ・委員からは、将来のあるべき姿を見据えて、長期的なスパンで検討すべきとの意見があった。また、発信力強化のため、例えば、最終的にはオンライン化・カラー化するという方法や、コラムの導入、時事問題についての学術的な解説等の提案があった。
- ・小松委員長から、幹事会との連携を図りつつ進めていくこと、次回、『学術の動向』の将来あるべき姿について具体的なアイデアをお願いしたい旨発言があった。

(4) 平成27年度サイエンスカフェの担当について

- ・5月以降の各回担当（ファシリテーター）について、次のように決定した。
 - (5月22日) 萩原委員
 - (7月24日) 小松委員長
 - (9月25日) 渡辺(美)委員
 - (11月27日) 渡辺(芳)委員
 - (2016年1月22日) 那須副委員長
 - (2016年3月25日) 佐藤委員
 - (2016年5月27日) 福田委員

- ・サイエンスカフェに御登壇いただく先生方への謝金・旅費の支給について、事務局で確認後、委員に通知することとなった。

(5) その他

- ・資料7について事務局から説明があり、審議の結果、構成案のとおり決定した。
- ・『学術の動向』の企画変更や、サイエンスカフェのファシリテーター変更はメール連絡で対応することとした。
- ・次回の分科会を平成27年4月9日（木）に開催する予定とした。